



1 学期の終わりに

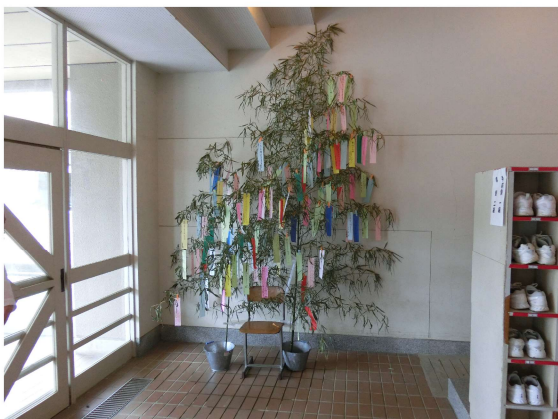
長かった臨時休業を終えて、5月24日(日)の入学式、25日(月)の始業式から始まった令和2年度の1学期が終わろうとしています。校庭からは体育の授業でティーボールに取り組む3年生の元気な声が響き、あの何の音もしなかった春が嘘のようです。今、改めて1学期の49(48)日間をふり返ると、無事終わることができることに感謝したい気持ちになります。子供たちと共に歩むことができ、本当によかったです。

学校がいつ始まるのかわからない先の見えない不安、新たに取り組む体調確認、消毒作業、今までのあたり前はあたり前ではなくなり、いくつもの行事が中止になっていきました。部活動の大会はなくなり、検討に検討を重ねても、普段より密になることを避けることができず、現地で感染した状況に対応できない現実から、修学旅行にも行くことはできませんでした。「またか。」と落胆する子供たちの表情、いじらしいくらいに気丈に振る舞う姿、そのどちらを見るのもつらいことでした。

「特別な1年」のスタートは、やはり特別な時間でした。大変なこと、つらいことも多くありましたが、本当に何を優先すべきか、改めて気づかせてくれた時間でした。今こうしている時も、子供たちの元気な声が学校に響いています。マスクで隠れた顔からのぞく子供たちの日元が笑っているとうれしい気持ちになります。これまで、いつでも目の前にあると思っていた幸せは、何物にも代えがたいものであり、日々、子供たちと共に過ごす中で感じることでできる喜びは、何があっても大切にしていかなければならないものなのです。

今こうして、子供たちの安全が守られ、1学期を無事終えようとしているのも、保護者の皆様のご理解とご協力があったからです。保護者の皆様にとっても「特別な1年」のスタートだったと思いますが、様々な面で支援していただいたことに感謝申し上げます。これからも子供たちの成長のため、何を優先すべきかを考え、教育活動を行っていきたくと思っています。引き続きのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

8月1日(土)より8月17日(月)まで、いつもより短い夏休みになります。この期間も感染症対策をしっかりと行い、元気に2学期を迎えることができたらと思います。



* 1学年が作った七夕飾り。短冊に「コロナウィルスが終息しますように」という願いもありました。

東中生躍動

7月23日(木)より、県内各地で山梨県中学校総合体育大会が始まりました。全国大会、関東大会が中止となり、県内大会も中止となりましたが、大会の運営方法等を変更し、様々な配慮をする中で何とか実施することができています。

本校在籍14年目になる小中体連事務局の渡辺先生は、「東中と言えば部活動。部活動と言えば東中。」と以前からよく言っていましたが、まさしく部活動は本校の伝統になっています。今年、私自身も本校に戻ってきて、部活動に取り組む子供たちのしっかりしたあいさつや、子供たちが自主的に取り組む整然とした規律のとれた練習の様子を見ることができて、大変うれしい気持ちになりました。また、先生方も子供たちの「想い」を大切にして、安全に部活動に取り組んでもらおうと、体育科を中心にいち早く部活動実施のためのガイドラインをつくってくれました。

7月22日(水)、夏季総合体育大会に向けて全校で壮行会を実施することができない中、3学年が学年壮行会を行いました。笑顔あり、涙ありの、大変心あたたまる時間となり、子供たちは大会に向けての決意を新たにしました。子供たちはよく、「先生たちのおかげで、大会ができる。」と言ってくれます。でも、子供たち自身が頑張っているからこそその部活動であり、先生方は子供たちの応援団であるだけでなく、共に戦っている存在です。一生懸命取り組む子供たちがいてくれるからこそ、共に悔しい気持ちになり、共に喜び合えるのです。私が本校に戻ってくる前の昨年11月、甲府駅で偶然、中国先生に逢うことができました。「サッカー部、優勝したんだね。おめでとう。」と声をかけた時の、中国先生の笑顔と、ほっとした表情を忘れることができません。私も、今回の総体で、7月25日(土)、26日(日)と久しぶりにバレーボール部のベンチに入れてもらいましたが、素晴らしい子供たちと、勝利という目標に向かう時間を共有できたことは、大変わくわくする経験でした。

たかがスポーツです。でも、そのスポーツの中に様々なドラマがあり、子供たちは仲間と一緒に、悔しい気持ちになったり、喜んだり、涙を流したり、楽しい気持ちになることができます。先生方も子供たちの「想い」に自分の「想い」を重ね、共に一喜一憂します。勝ち負けは必ずつきます。でも、この経験をできることが大切です。反省にしても、感動にしても、その「想い」を大切にするからこそ、また次のステージに向かって歩んでいくことができます。夏休みに入ってから大会は続きます。本校の一丸となつての精一杯の健闘を期待しています。

もちろんこの経験は、部活動に限ったことではありません。2学期も、子供たちと共に歩むことができる時間を大切にしていきたいと想います。



* Jリーグや国際試合でも活躍する本校出身の長沼洋一選手から贈られた消毒用ジェルを部ごとに持って、県総体に臨みました。